

## 学生サポーター育成のための 2026年度「ファシリテーション研修」を実施しました

本学では、大学院生および学部生が先輩学生として授業をサポートし、教育効果を最大化する活動として、クラス・サポーター（CS）、TA（ティーチング・アシスタント）・SA（スチューデント・アシスタント）による取り組みを行っており、「学生授業サポート制度」として運用しています。この学生サポーターの育成のため、3月27日（金）に2026年度ファシリテーション研修を行い、CS候補生55名と、教職員3名の計58名が参加しました。



教養力育成センター 土屋麻衣子教授

研修は「① ファシリテーションについて理解すること。② 研修前より研修後に、学生サポーターとしてのマインドセットが整うこと。③ 学生サポーター経験者と未経験者がお互いに学び、学生サポーター活動に資する気付きやスキルを得ること。」の3つを目的に実施されました。5～6名ずつの10グループに分かれ、教養力育成センターの土屋麻衣子先生のファシリテーションのもと、ロールプレイングやグループワークを中心とした参加型プログラムとして実施されました。また、2・3年生の3名が学生スタッフとしてこれまでの研修参加経験やCS経験を活かしてプログラムをブラッシュアップし、当日も司会やグループワークの進行役として活躍しました。

研修ではまず、学生授業サポート制度やアクティブ・ラーニング（AL）についての説明があり、CSの役割は「話すこと」ではなく、受講生が主体的に学び合える「対話の場」をつくることであるという考え方が共有されました。その後、アイスブレイクを通じて参加者同士の緊張をほぐし、活発な意見交換が行われる雰囲気づくりがなされました。

続くロールプレイ形式のグループワークでは、参加者が順番にCS役となり、身近なテーマについて意見交換を行うことで、ファシリテーターとしての関わり方を実践的に体験しました。途中、土屋先生からファシリテーションの具体的なテクニックが紹介され、「ファシリテーターとは、話しやすい雰囲気と対話の構造をつくる存在である」という視点や、困ったときに一人で抱え込まず共有・相談することの大切さが伝えられました。

後半では、ロールプレイの振り返りやCSとして想定される場面への対応について話し合い、CSとして求められる姿勢や判断力への理解を深めました。研修を通して、参加者は実際の活動への不安や疑問が解消され、役割や活動内容を具体的に理解することができ、今後のCS活動に向けた前向きな一歩を踏み出す機会となりました。

